

平成29年度 第1回豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録要旨

日時 平成29年9月26日(火) 10時00分～12時00分

場所 豊川市役所 本34会議室

出席者(10名)

愛知大学 教授 阿部 聖委員

豊橋創造大学 准教授 花岡 幹明委員

豊川商工会議所 専務理事 松下 紀人委員

豊川青年会議所 理事長 松山 紘之委員

ひまわり農業協同組合 企画課長 牧野 延全委員

豊川信用金庫 執行役員 経営支援部長 平松 俊浩委員

豊川市観光協会 専務理事 平賀 菜由美委員

東海日日新聞社 森 美香委員

豊川ビジョンリサーチ 副会長 竹本 裕一委員

特定非営利活動法人とよかわ子育てネット 代表理事 伊奈 克美委員

事務局 企画部長、次長、企画政策課長はじめ企画政策課員4名、子ども健康部保健センター主幹はじめ2名

欠席者(1名)

連合愛知三河東地域協議会 事務局長 瀬野 弘志委員

議題(1) 会長、副会長の選出について

会長 阿部 聖委員を選出、了承

副会長 阿部会長から松下 紀人委員を指名、了承

議題(2) 豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況(平成28年度分)の評価について

(事務局 説明)

ー 資料に基づき説明 ー

(会長)

- ・ありがとうございました。それでは今後の方向性、主管課評価、取組状況、事業内容等について皆さんのご意見をお願いします。まず基本目標①「仕事づくり」、連番1～13になります。この範囲内で皆さんのご意見をお願いします。

(委員)

- ・議案と趣旨が若干外れますが、事業評価をしようとした時に〇×での判断になります。

事業に対して効果がないとはいえないまでも、○ではないというものがいくつかありました。次回以降に例えば○×△だとか、評価の指標を増やしていただきたい。具体的に申し上げますと4段階にすることで、「より良い」のか「より悪い」のかの線が引けると思っていますので、そのような評価にさせていただけるよう検討をお願いしたいです。

⇒（事務局）ももとは国の評価基準に基づいて事業の存続、廃止という切り口の評価が国から示されています。しかし委員ご指摘のとおり「やる」、「やらない」の判断だけではファジーな部分の意見が出にくくなりますので、一度検討させていただきたいと思えます。

（委員）

・私も「今の達成度は低いけれども今後よくなってほしい」ということから考えると全部○の評価になってしまいました。それから目標値について、6ページ「職業能力開発専門学院支援事業」で人数が626人、27年も656人ですが、目標値が500人となっています。また7ページ「農業の担い手への農地利用集積」の農地利用についても、実績数が一桁ですが目標値は2倍、3倍です。実績値に対し目標値の設定が適当なのかと思えます。これは「耕作放棄地解消への支援」に関しても同じで、目標値の検討が必要だと思えました。また「講演会セミナー」は外部委託で行い、行政は支援をするというような、外部委託をし、協働していくのも一つの手かと思えました。

⇒（事務局）委員ご指摘のとおり、目標値の設定が適切なかどうかというのは基本目標①に限らず、これ以降も出てくると思えます。これに関しては委員からのご指摘ということで、所管課に目標値の見直しを求めていきたいと思えます。ただ総合計画の数値目標としての公表数値を見直すのは労力が必要ですので、そのあたりは担当課と検討を加える中で進めさせていただきたいと思えます。

・一方で、専門で携わっておられる委員に伺いたいのですが、「耕作放棄地解消への支援」の農務課の目標値設定が10件というのはハードルが高いのか低いのか、現場の感覚をお伺いできればと思えます。

（委員）

・件数的には年度ごとニーズがあるかどうかなので難しいところだと思えますが、多いとは思っていません。どちらかというと、農地バンクなどをどうやって機能させていくべきかをずっと考えていく必要があると思えます。その結果、件数にあがってくると思えます。若干この取り組みが弱いと思つてのこの件数ですので、そこを固めていけば10件に近づくのではないかと思えます。

（事務局）ありがとうございます。

(委員)

- ・ 5ページの「販路開拓支援事業」ですが、26件が11件に減っています。これは活用しやすくする手立てが必要だと思います。次に6ページ「地域技能者活用事業」ですが、目標講座数が2講座ではあまりにも少ないので、もっと講座数を増やす必要があると思います。
- ・ それから7ページ「新規就農者への支援」ですが、「目標値 12、実績 20、事業評価○」になっています。達成しているので◎でいいのではないかと思います。8ページの「6次産業化への支援」に関しては、6次産業化に関心がある農業者の掘り起こしが足りないのではないかとと思うので、アプローチの仕方を変えた方がいいと思います。9ページ地産地消ですが、地元の人に食べてもらうより地元のおいしいものを全世界の人に食べてもらう方策の方がよいと思います。

(委員)

- ・ 連番3「創業支援」ですが、△から◎に上がっていて素晴らしいことだと思います。ただ27年度が134件で22万円なのに対し、かかっているお金が5倍ぐらいになっています。数値目標数は素晴らしい成果ですが、この値段の跳ね上がり方がよく分かりません。
- ・ 次に連番10「有害鳥獣対策」ですが、事業評価が「過去最大の捕獲数になっており多くの実績をあげることができた」とあり事業評価が△になっています。ただ何をもってこの事業が成功か分かりづらいです。それは目標設定がないからだと思いますが、こうなると評価しづらく、ここは評価をつけていません。
- ・ 次の「耕作放棄地解消への支援」に関して、件数で評価するのか適切なのか分かりません。放棄地を解消するだけであれば、面積がある程度解消されればその方がベターなのかと思います。評価をしづらかったです。

(会長)

- ・ 「鳥獣被害」もそうですが、被害金額がどのように推移し、それに対してどういう対策を打ったら被害金額の増加率が減ったとか、そういう評価の仕方ではないとさっぱり分からず評価のしようがないということになります。
- ・ それから「耕作放棄地」もそうですが、耕作放棄地が今どれだけ減っているのか、増えているのか分からない。それに対してどうなのか、そういうことが分からないと評価がしにくいです。これらに関してだけではなく、こういうことが時々見受けられます。

(委員)

- ・ 先ほどの意見と重なりますが、「販路開拓の支援事業」についてです。以前に要望したのですが、使い勝手が悪いです。展示会をやる場所も限定されていますし、対象も制限が細かく使い勝手が悪いです。また、市も地元企業に補助金を出すだけではなく、率先し

て販路開拓に主体性をもって動くことを考えるべきだと思います。

(委員)

- ・中小企業の創業だとか支援の中で、件数の問題があるのかもしれませんが、これ自体がHP上で見づらい位置にあると感じました。HPトップの中でも実際どこを見たらここに行くのか昨夜は迷い、最終的には検索をしました。多くを募集するものに関してはこういうことも考えた方が良いと思いました。
- ・あと事業評価ですが、目標値に対して良いのかと思います。ただ、成果は起業しているとか業績が上がっているとか、そういったところが目指すべきゴールであったらいいかと思っています。今のところ相談だとかセミナーが一つの形だと思います。
- ・私は今、東三河のあるコンテストの実行委員をやっているのですが、是非、成果として賞を目指していただけるといいと思います。ただセミナーを受けるだけではなく、それが最終的にどのようなことになるのかということを示すのも良いです。またこういった事例が関連先で周知され、応募する方の参考になるのではないかとも思いました。

(委員)

- ・農協という立場で農業関連のところを触れさせていただきます。7ページ後継者支援、新規就農者、就農塾、農業塾で一定の評価をされています。第9次中期総合計画を策定している中で就農塾、農業塾の参加者が新規就農に意欲がある方よりも家庭菜園だとかそういった関係のニーズによる参加が増えており、新規就農にはなかなか繋がりにくいのではないかという課題が9次の計画策定に挙がってきています。その辺りの見直しをJAの計画に入れていきたいと思っています。
- ・また農地の集積や「耕作放棄地の解消」ですが、実は田んぼの方には一定の解消等がみられます。畑の方がやはりほとんどできていないのが現状です。この辺りも今後の計画に入れていきたいと思っています。その辺りが見えにくいということで田んぼと畑地を区別して取り組んでいかなければならないと思っています。
- ・8ページの「6次産業化」については、先程6次産業化の掘り起こしが少ないという話がありましたが、農家個々の話を聞いても6次産業への意識意欲があがってこないのを感じています。単純に6次産業を商品化して販売ということではなく、観光農業などに意欲がある方もいらっしゃる。6次産業という形にこだわらず、農産物を活用しやかに付加価値をつけていくかという取組みへの転換が必要かと思っています。次期計画については、6次産業という名前より、いかに付加価値をつけるかというところで少し転換を図っていきたいと思っています。
- ・9ページの食育活動ですが、食育の目的が明確でないというところもあるので、当JAにおいても、地産池消の意味もありますので、何のために地元食材を食べてもらうのかという啓発も含め農業体験など新しい取組みを考えていきたいと思っています。

- ・先程の委員の話にもありましたが、外部委託の話をいただけると取組みやすいかと思えます。5 ページ創業の関係ですが、近年女性の創業が増えています。ただそういう方の話を聞くと男性女性同じ話で少し分かりにくいということです。豊橋では女性に焦点をあててセミナーを開いているということですし、豊川市でも考えてみたらどうかと思えます。
- ・最後に「チャレンジとよかわ活性化事業」ですが、少し取組みが弱いという印象を受けています。先程委員からもお話がありましたが、もっと市が主体的に動き積極的にPR や募集等していったほうが良いと思いました。

(会長)

- ・ありがとうございます。いろいろな意見が出ましたので、事務局でまとめていただいてこれからの活動に生かしていただきたいと思えます。それでは基本目標②「ひとの流れづくり」連番 14 から 31 へ移ります。ご意見をお願いします。

(委員)

- ・10 ページ「新規工業用地の開発」ですが、まだ着手もしていないし調整中ということになっています。我々は評価をしないということでもいいのでしょうか。
⇒ (事務局) とりあえず未着手状態になっています。28 年度に行った実績がないので評価もできない、ということです。

(会長)

- ・くどいようですが、事業評価の目標値を上回ったというのと、○が7, 8割程度実現しました、ほぼ目標を達成しました、というところがないので◎をつけにくいです。事業効果にしても主管課の人柄でニュアンスが変わってくるのかと思えますので、もっと明確にしたほうがいいのかと思えます。

(委員)

- ・連番 15、16 です。まず 15 番ですが、目標値 180 件、実績 43 件を見ると普通評価は×になるところですが、そもそもKPI をどのように評価すればよいか分かりません。訪問件数だけで判断すると×になりますが、より効果的な啓発が行われ契約が成立していれば事業自体は達成していると思えます。実際の契約成立のための啓発だと思うので、ここも評価をしづらく私は評価をしませんでした。次もそうで、成功報酬でイニシャルコストとランニングコストの税金がかからないならば、チャンネルは広くあったほうが良いに決まっているので、これをやること自体は良いことだと思いますが、目標値と実績値だけでは評価しづらい項目だったのでこれも評価をしていません。
- ・次に連番 26 です。意味のある良い事業だと思うのですが、どういう展開をしていくかが重要だと思っています。これは我々のPR になってしまいますが、今月とよかわバラを

モチーフにした豊川新土産を創出するイベントをします。実際 10 社の企業が新商品を開発し、何なら商品化をするという企業もあります。グランプリをとったからとかではなく、こちらがお願いをすればやる気のある企業がありますので、是非行政としても後押ししてほしいです。「ヤマサのちくわ」とか「坂角のゆかり」とかいうように、豊川にもそれに匹敵するようなものが生まれればいいと思っています。

(委員)

- ・10 ページです。企業誘致と施策の普及のための企業訪問ですが、そもそも訪問件数が 100 件不足のところ目標設定が 180 件になったのが問題かと思っています。やる気があって頑張ろうと思ったところ結果的には 43 件と出ています。目標の立て方の観点がどこにあったのか、最初の段階での件数を抑えておけばよかったのではないかと思います。あと、指標のところ企業誘致を入れてもらえればよかったかと思っています。

⇒ (事務局) 補足いたします。平成 25 年は 186 件、平成 24 年は 154 件訪問しております。担当課としては 180 件回りたのですが、実は 28 年度実績 43 件と大幅に減った理由として、新規工業用地の開発の地権者との調整といった、現場に入っていく回数が増えたそうで、なかなか企業を回りきれなかったという話を聞いています。所管課のイレギュラーな対応があってもなくても、年間これだけ回りたいという目標値の設定になっており、事情によって行けたり行けなかったりする思いだけの目標値の設定でいいのかということは所管課にかけてみたいと思っています。

(委員)

- ・この分野の着手率が低いということですが、着手ができなかった要因があると思います。重要度が高いものであればその要因を解決しなければならない。また他課と連携することで着手が上がると思うので、着手をした結果だけについて評価するというのではなく、着手ができなかった要因というものに対するアプローチが必要だと思います。庁内ではされていると思うのですが、そういうことを我々が見ることができれば何らかの改善提案ができるかと思っています。

⇒ (事務局) 今、着手ができていないバーがいくつか見られますが、基本的には計画期間の平成 31 年度内にできる事業の位置づけをしています。この中で計画期間中に着手できるのかと思う事業が実は 1 事業、それ以外は 30、31 年度には着手できるだろうという見通しで動いています。連番 22、プリオにアンテナショップを作りましょうという事業ですが、これはほぼ具体性が出ていない、課題が多いということを知っています。後ほどお話する予定でございましたが、本会議を年明け早々に開催したいと思っています。計画に位置づける事業の見直しを担当課にかけていきたいと思っております。その対象になる事業かと想定しています。なぜできなかったのか、着手できなかったのかという分析を担当課でしている段階なので、場合によってはこの事業は落ちてくる

かと思えます。

(委員)

- ・今後やっていく調整中のものについてのヒアリングがどうなのかと思っていましたので、それが具体的に分かりました。プリオのアンテナショップですが、やはり今色々な自治体がアンテナショップを首都圏中心にやっています。成功例を見ますとほとんどイートインができるケースです。お土産が置いてあっても故郷だった方は、一度は行くけれど継続的に賑わっているところは少ないです。お中元やお歳暮といった皆さんが贈るものを郵便局とタイアップし、市民がまずそれを買って、お値打ちだと思える仕組みができると思います。最初だけ良いのではなく、継続できるような企画があれば観光協会としても微力ながら協力させていただきたいと思えます。

(委員)

- ・今のアンテナショップの件ですが、私は×をつけました。たまたま週末に半田市へ行ったのですが、お祭りをやっていてスーパーの一角に常設の物産展がありました。常設はしていますが、観光客は来ないし閑古鳥が鳴いていました。しかし市のPRパンフレットには、ここにお土産がありますよ、と謳ってあり素晴らしいものがあるかと思って行ったのに全く無く、結局別のところに行くことにしました。
- ・今の状態でプリオの中にアンテナショップを作っても、観光客がわざわざそこへ行って買うのは難しいかと思えます。アンテナショップならもう少し違う場所にした方が良く思えます。
- ・それから14ページ、インバウンド対策ですが、評価は外国人宿泊数が載っていますが、宿泊数が多いというのが取組の結果に直接結びついているわけではないと思うので、このところも難しいかと思えました。

(委員)

- ・13ページ、景観整備の支援です。今後、赤坂の大橋屋さん辺りにいろいろな計画があるということを伺っていますので、あの辺りの景観に目線を変えながら引き続きできたらと思っています。

(会長)

- ・まだご意見ある方もいらっしゃるかと思えますが、次へ移りたいと思えます。基本目標③「結婚・出産・子育て環境づくり」連番32から57です。取組が好転しているものが多いですが。

(委員)

- ・18 ページです。産後検診、妊婦検診、乳幼児健診が公費で行われています。受けない人がいるのと受けなかった人のフォローはどうされているのですか。
⇒(事務局)そこはつかんでいません。この後、保健センターが外部ヒアリングで来ますので確認しておきます。

(委員)

- ・妊産婦の検診などは14回分無料券をもらうのですが、いつから使い始めるのでしょうか。全部使わない方もいるかと思えますので、何回というよりも何%の方が受けているのかという言い方がいいと思います。乳幼児や産後の方で受けていない方のフォローは必要だと思いました。
⇒(事務局)乳幼児の検診については、受診のない場合は電話や訪問でフォローしていると聞きました。上2つのフォローについては、保健センターから回答させていただきたいと思います。

(委員)

- ・連番 35、学校教育における英語力のパワーアップ事業ですが、事業効果は◎になっています。もともと授業開始前に英語が楽しいと思った児童の%が記載されていないので評価しにくいです。この目標値がどういう裏づけでなされたのか分からなかったのと、DVDの配布にどのくらいのお金がかかったのか、DVDに対してどのくらいの人が見てどういう評価があったのか。予算に対してどのくらい機能したのか分からず、現状では目標はオーバーしているので○にはしていますが、本当に○なのか疑問です。
- ・次に47番、子育て支援センター事業です。△になっていますが、△の理由が「周知されていなくて本当はニーズがあるのに活用されていない」のであれば△だとは思いますが、やっていること自体意味があることだとは思うので、この数値を超えることがこの事業の成功か甚だ疑問です。本来ならこういうものが減っていった方が将来的にはよりよい社会になっていくのではないかと思うので、何をもって成功とするのかよく判断ができませんでした。
⇒(事務局)子育て支援センターの目標値 600 件というのは過剰ではないかというご意見があったのを伺っておりますが、この 600 件というのは実施計画で公表している数字です。昔は延べ相談件数でカウントしていたのですが、最近は同じ人の場合は一件というカウントに改めたそうですので、担当課にはこの数値はこのままでよいのか今回投げかけをしました。

後段部分の指標の捉え方ですが、これはアウトプットです。成果指標というより活動指標になります。センターを設けたことにより、これだけの相談件数は勿論ないほうが好ましいのですが、センターとしての役割を果たしているという見方もできます。

成果指標をどのように設定するのか、おそらく評価されるのは成果指標なのですが、議論が止まっているところもありますので、担当課には委員のご指摘ということで成果指標を掲げるよう強く話していきたいと思います。

(委員)

- ・ 21 ページ、赤ちゃんの駅事業です。これは登録施設が最初から 140 という数で登録されているのですが、例えば信用金庫金融機関や自動車販売、そういった店舗を書き連ねています。これだけの件数が出てそこから先が伸びていません。子供をつれて出かけた時にここでもオムツが替えられるようになったとか、新しい店舗が作られた時に授乳ができる施設を作ってくれるようになったとか、街歩きが良くなったという結果があまり出ていません。今、件数があってももう少し登録施設が増えるとよいかと思います。赤ちゃんの移動式駅についてはだいたい周知され、色々なイベントで使われるようになりまして、もう少し増やされたほうがよいと思います。
- ・ あと 24 ページ、病後時保育事業です。今は西部地区にある可知病院に病後児保育をやってくれるところがあるのですが、人数は実績数となっているのですが、実際はそれ以外の地区から西部豊川にあるところに子供を預け、それから職場へ行くのは難しいことです。東部地区にもう 1 施設作りたいというのが計画で出ているのですが、それは満たされていないままでここにも載っていません。病後児保育児童に関して人数はすべて対応できましたということしか出てきていません。もう 1 施設の数が必要ないということがどこかに載ってくるか、件数で 2 件目標、何年までに 2 施設作る、今のところ 1 施設です、というような評価指標をいただきたいと思います。

(委員)

- ・ 37 番、婚活イベントです。これは企画政策課がやっているということですが、会議所としても商工観光課のルートからきた婚活もやっていますので、これをうまく統合してやっていけないかと思います。人が増えれば運営の難しさもあり、人が増えればもっと参加者も参加しやすいこともあるかと思います。特定のエリアでやってしまうと特定のエリアだけの人の集まりになってしまうので、もう少し融合できるような配慮をしてほしいと思います。28 年に参加者はどの程度いたのか教えてほしいです。
⇒ (事務局) 90 名です。29 年度からは子育て支援課に交付支援事業という位置づけの中でシフトしています。引き続き J C さんに事業をお願いするものと合わせて他団体で婚活イベントをする助成制度を設けていますので、そういった活動を計画されていまして子育て支援課の方へお問い合わせいただければと思います。

(委員)

- ・ 20 ページ、子ども医療費支給事業です。事業効果が○ですが、これはもっと増やそうと

ということなのか、達成だと◎だと思うのですが。私立高校の授業料の支援もしているのに、これが○ということはまだ増やそうとしているのか。委員が先に言われた病後児保育も評価がすべてに対応できたとなっています。普通に見れば◎だけれど、西部だけで東部はダメだということになれば、やはりそのことが書き込まれないと評価の仕様がなにかと思います。効果があるけれど、こういうところが足りない、ということを書き込んでくれないと評価の仕様がなにかと思います。

⇒（事務局）全般を通じ委員の皆様方が評価するのに苦勞されている状況が分かりました。それを含めもう少し評価しやすい指標の設定や、コメントの書きぶりを検討していきたいと思います。

（会長）

- ・それでは次に基本目標④「安全に快適に暮らせるまちづくり」についてお願いします。

（委員）

- ・26 ページ、空家等対策推進事業です。実態調査ができただけで◎というのは違うと思いますので、ここから先に進めてほしいと思います。快適な居住空間の整備は、豊川市は歩道整備がまだまだなので歩道整備を推進してほしいです。

- ・27 ページ、シルバー人材センターの支援で、就労機会の前年比0.2%増加とありますが、実際は何%だったのか教えていただきたいです。

⇒（事務局）シルバー人材センターの就労率は把握をしておりませんので確認して載せるようにしておきたいと思います。評価の最終的な報告書は委員の皆様にご確認させていただきますので、その段階で盛り込むべきものは載せさせていただきたいと思っています。

（委員）

- ・28 ページ、東三河広域連合ですが、6事業実施しているということですが、これで終了ということになってしまうのか、さらにもっと増やすことを検討しているのか、これでは分かりませんのでその辺りもよろしくお願いします。

（委員）

- ・先ほど委員が言われた空家対策ですが、調査をやりました、その結果どういうアクションを起こしているのか、所管の建築課の今後のスケジュールを教えてください。

⇒（事務局）今後の取組みとして、今年度に空家等対策計画を策定していきます。その計画を策定した上で、空き家バンクの創設だとか、空き家の解体費の補助制度などを検討していきたいというような今後の取組みの方向を持っているようですので、皆様のご意見を付したあと、担当課がそのあたりを埋めて出してくるという状況になるかと思っています。

(会長)

- ・まだご意見のある方もいらっしゃるかと思いますが、事務局にご意見を送っていただければと思います。それでは議題3に移ります。

議題（3）第6次豊川市総合計画実施計画事業の外部ヒアリングについて

(会長)

- ・外部ヒアリングということで「産前産後ヘルパー利用費補助事業」について、所管課から説明をお願いしたいと思います。
- ⇒（事務局）説明の前に先ほどご質問のありました産後検診審査事業、妊婦健康診査事業の受診をされなかった方へのアフターフォローですが、この2つについては特にやっていないとのことでした。それでは産前産後ヘルパー利用費補助事業について説明をお願いします。

(事務局 保健センター説明)

－ 資料に基づき説明 －

(会長)

- ・ありがとうございました。それではご意見などありましたらお願いします。

(委員)

- ・4-2、事業費と活動量のところで、決算が19,000円になっていますがこれで間違えないですか。
- ⇒（保セ）予算が63万について、当初の目的が一人一回2時間で45日間の利用、20人というかたちで最大使うと63万になるのですが、実際使われた方が45日使われず大抵は2、3日で終わったり、一週間以内で終わった方が多かったです。その辺でかなり少なくなりました。

(会長)

- ・先ほど家事をやっていただけて助かったとか、大人と会話する時間が良かったとか、申請しておけば安心かという話があったかと思いますが、この事業の問題点や課題は何だととらえていますか。
- ⇒（保セ）上の子がいて下の子をみないといけないという時にヘルパーが来るのですが、下の子をみないといけない時に本を読んだりとか、少しの時間でいいので上の子をみてもらえるような保育を入れてくれないかという話がありました。
- また一週間必ずヘルパーが来てくれると思っているお母さんが多いようで、結局各事

業所へ連絡し期間をつなぐケースもあるようです。

(会長)

- ・他人が家に来て家事をすることに対する抵抗感といったような問題はないですか。
⇒ (保セ) あると思います。しかし、それにも増してお母さん一人で子供の世話をする負担感のほうが大きい方は申請をしてくるのだと思います。抵抗感のある方はあえて申請しない方もいらっしゃると思いますので、22件が多いか少ないかの判断は難しいところです。

(委員)

- ・支援内容の検討というところですが、現在のところ家事のサポートをすることには補助金がついています。上の子のことを言われましたが、我々の団体も家事サポートをやっています。上の子がお風呂をあがった時に受け取ってほしいというニーズもあります。赤ちゃんの受け取りは家事サポートの対象になっているのですが、では上の子が裸でできた時に拭いてあげてはいけないのか、という話になります。そういった内容を足していただきたいというのと、それから夕方にごく赤ちゃんが泣いてお母さんが大変になってしまう時があるので、家事サポートに限らずにお母さんのニーズがあれば内容を広げて補助金を出してあげられると良いと思います。
- ・あと、60日間対象ということですが、昔は1ヶ月といいましたが、まだ赤ちゃんの首が据わっておらず、お母さんが家事をするのは大変ですので、この60日間をもう少し長くできないかと思います。お母さんも自腹を払っているわけですから、できるようになれば補助がつくから使ってやれというわけではありませんので、もう少し期間を延ばしてもいいのではないかということと、家事サポートだけでなく保育のサポートも補助対象にしてくれれば良いかと思いました。
- ・それから一つ質問なのですが、利用申請をされるタイミング、母子手帳を配布されるときに保健センターへ行きますが、その時に申請されるのか、それを持ち帰り改めて妊娠中のお母さんが出直すのか、それとも産んでからのお母さんが保健センターまで申請に行くのか、どういったケースが多いのでしょうか。妊婦さんや産婦さんがもう一度保健センターまで足を運ぶのは、そこで一個手間が増えてしまいます。方向としては、妊婦教室やパパママ教室をされているかと思いますが、そういった時に申請窓口のような感じでヘルパー事業の利用申請がここでもできるという窓口をおいてくれば、登録料がかかるわけではないので困った時用にお守りがわりに入っておこうかと思うお母さんもいらっしゃるはずです。
- ・それから民間の病院などで産科マタニティヨガだとかやっていますので、そこで申請はできなくても、こういったものがありますよ、というお知らせができれば申請される方が増えると思うので、そういった窓口を増やしていただければいいと思いました。
⇒ (保セ) ありがとうございます。ファミリーサポート事業のように保育園まで迎えに

いってほしい、散歩に連れて出てほしい等どのあたりまで事業を拡大するかというのが議論になっています。安全性が確保される中で、お母さんがみている中で支援を
するとか、明確な線引きができていません。

利用申請については、妊娠中に利用申請される方が多いです。母子手帳と同時ではなく個別に受け付けています。産後の方は、お父さんが利用申請されたケースがあります。%の方はわかりませんのでまた改めます。窓口の拡大については、チラシを大きくしたものを産科などに貼っていただく等は検討していきたいと思います。

(会長)

- ・ 期間を広げるといのは可能なのでしょうか。

⇒ (保セ) 今、答えを出すことはできませんので、持ち帰って検討したいと思います。

(委員)

- ・ 一つは事業の幅として、子育ての環境をよくするという観点からすると、上のお子さんのサポートはありだと思います。あくまでも目的が産後のヘルパー支援という観点から考えれば赤ちゃん支援に限らなくても良いと思います。それから一つ質問ですが、生活状況の把握をされているということですが、その中で一番心配なのが利用した方がいいのに利用していない方がいれば問題だと思います。このぐらいの件数が利用されるべきというのが20人なのか、つまり把握している人数と利用申請者とのギャップがどのくらいあるのか、分かれば教えていただきたいです。

⇒ (保セ) 実際利用した方がいいのに利用しなかったという方が一人みえ、その方は家庭的にさまざまな問題を抱えておられました。ヘルパーさんが入ったのですが、お母さんが嫌がり、こちらが期待しているほど長く利用されませんでした。必要に応じては個別的な対応でヘルパーさんをいれることをしています。

それから人数的な問題ですが、28年度の数字ですが、頼る人がいないという人が35人、2.5%になります。おおよそその人たちのカバーはできたのではないかと思っております。今後周知を図る中で、昨年の実績よりも上回る予定はしています。赤ちゃん訪問を行っていますが、その時に実際に申請したけれども利用しなかったのかという情報を得るようにしていますので、その辺りの数字が分かればもう少し精査できると思います。

(委員)

- ・ 事業所のところですが、事業所の箇所を増やしていくのも人数を増やしていくのもあると思うのですが、今、ピンクの紙を見せてもらうと5つあっても「親御さんが病気するとき」とか「こういう人は使えません」といった制限があると、5つあっても実際はそんなに沢山あるわけではないということになります。このあたりを事業所さんが行われて

いる事業内容をもう少し広げられるように、声かけなのか、補助なのかできればいいと思います。

- ・あと事業所の保険内容です。食べ物も扱いますし、そういったものの確認がきちんできてきているかどうか。食事の提供であればどういったものを受けてないといけないのか、そういうものがあると思うのですが、そういったものの確認が必要だと思いました。

(会長)

- ・ありがとうございました。予算と決算の乖離はかなりあり、今後利用者も増えているという話でしたが、問題点を課題でとりあげているように支援内容の検討だとか、もう少し利用しやすい体制の整備を検討していただければと思います。それではこれで議題3は終了とさせていただきます。議題の方は以上となります。

(事務局) — 事務連絡 —

以 上